

KGAニュース '84冬季号



第10回関東グランドシニア(程ヶ谷CC)

目次

グリーンの思い出.....	1	ルールQ & A.....	10
相山 武夫		日本ゴルフ協会、規則委員会判例	
第31回関東シニアゴルフ選手権競技.....	2	理事会・委員会・コースレート.....	13
第10回関東グランドシニアゴルフ選手権競技.....	5	月例成績表(昭和59年度9月~11月)お知らせ.....	15
昭和60年度主催競技日程.....	8		

No. 9

グリーンの思い出

横浜カントリークラブ

理事長 相山武夫



刈り込まれたばかりの芝草のむせかえるような甘い芳しい匂いに魅せられて、ゴルフから離れられなくなつて四、五十年近くなつてしまつた私です。

北陸富山の海辺の町に生まれ育つたのですが、その町は俗に言う『越中富山の薬売り』の町で、住民の三分の一近くが製薬販売にたづさわっております。春先、秋になると町中は、刈り取られた薬草の草根本皮が塀の上に干され、キナくさいような甘い薬草の匂いが漂ります。あの匂いにつつまれて育つた幼い頃の記憶が、芝草の匂いとダブってなつかしく惹かれ、離れられなくなつたのかもしれません。

今年は、二月三月と七十年来とか言われる大雪に見舞れ、各クラブとも除雪等で大変苦労しましたが、利用者数については、昨年とあまり変わらないという結果になりました。また、昨今の青壯年のギャンブル離れ、「見るスポーツから自分自身参加するスポーツ」をと言う(この流れはそう変わるとも思われません)傾向から、ゴルフ界も第三のブーム到来とか言われ、コースの新設も數多く報ぜられています。又、婦人ゴルファーも年々増加しており、施設面その他で種々の問題が提起されてきております。

〔ゴルフこぼれ話〕

(その一)

御夫婦でゴルフを楽しんでいた方がいらっしゃいました。御婦人は、レディスではトップクラスの方ですが、その後不幸にして御主人に先立たれました。未亡人は今でもプレーを続けていらっしゃいます。

ある日のコンペで、ショットが乱れて大たたき、「今朝はスタートに遅れそうになつたので、主人に水をあげてくるのを忘れてしまつたわ。草葉の陰で焼餅を焼いているのかしら。」

ロッカーには御主人の帽子が上棚に置いてあります。心一途な方ですが、暖かい人柄の方です。

(その二)

ある老人ゴルファー、晩秋の一日、十七番ホール迄なんとかついて来たが、池越えのドライバーをトップして池の中の鴨に当つてしまい、どうした拍子か鴨がひっくり返ってしまいました。可愛相なことをしたとの思いと、恥かしさでドライバーを放り出してクラブハウスへ引き上げて行つてしましました。実はこの鴨はオトリの木製の鴨でした。

(その三)

シングルクラスのプレーヤーが、ある日同好会のコンペに参加しました。プレーの途中で突然ソケットしてからは、スリーパットはするし、パンカーではダフルし散々な目に会い五十近くたつてしまつた。パートナーが気の毒に思いなぐさめてくれました。

「このコースでプレーをなさったことがないんじやないですか……。ここのグリーンは、少し小さめでアンジュレーションが多く、なかなか難しいホールが多いんですよ。」

「……………」なぐさめられたプレーヤーは、そのコースの理事長でした。(終り)

昭和59年度(第31回)関東シニアゴルフ選手権競技

予選 第1ブロック 9月6日㈭
芙蓉カントリー倶楽部
第2ブロック 9月7日㈮
オーク・ヒルズカントリークラブ
決勝 ●期日 9月25日(火)・26日(水)
●コース 龍ヶ崎カントリー倶楽部



(練習場で最後の仕上げに励むシニア選手達)

本年度の関東シニア予選競技の参加申込み総数は257名、昨年度の参加者数が238名だったのだから前年度比約10パーセント増。依然としてシニア選手の増加傾向は一向に衰えず、まさに“シニア・パワー”的ますますの充実振りを如実に感じさせた。

それだけに予選から元気一杯の激戦を展開した。第1ブロックの芙蓉では1オーバー・パー71で小原正也(土浦)・福田国三(浜松シーサイド)、鈴木政伊(川崎国際)の3人がトップに並び、以下83ストロークまでの66名が予選を通過、また第2ブロックのオークヒルズでも3オーバー・パー75の武石小二郎(船橋)、和田康臣(江戸崎)、栗原幸彦(水戸)の3人をトップに、同じく83ストロークまでの66人が予選を通過、合わせて132名が決勝に進出した。それにしても予選通過がいずれも83ストロークとは、シニアの決勝進出も厳しくなったものである。

決勝は予選通過の132名に8名のシード選手を加えた140名が参加、9月25、26日の両日、茨城県の龍ヶ崎カントリー倶楽部で行なわれた。龍ヶ崎は名匠井上誠一氏の設計した数あるコースの中でも名コースとの評判が高いが、この龍ヶ崎がグリーンもフェアウェイもこの時期としては最高のコンディションに仕

上っていた。今年は冬の雪害、夏の干ばつと悪条件に見舞われ、どのゴルフ場も多かれ少なかれ、その被害に悩まされている。ところが龍ヶ崎は雪害や干ばつが嘘のように思えるほど、コースはベスト・コンディション。参加選手も「コースは最高。これじゃスコアが悪い時に云い訳の種がない」と変な嘆き方をする人もいるほどだった。

龍ヶ崎の小谷支配人は「この大会までにはなんとかコースを青々とした最高の状態にしたいと苦心しました」という。干ばつにおそわれた7月から9月まで、毎日午前3時からフェアウェーに水をまき、しかも高麗グリーンは4mmのクロス刈りが出来るよう仕上げたのだから、その苦労の程も察せられよう。

この好コンディションに第1日から好スコアが期待されたが、天気予報が雨模様ということから、急遽ピンの位置をグリーンの高目に切り替えたため、微妙な傾斜にラインを読むのが難かしくなり、しかも速いグリーンに眩惑されてパットに苦しむ者が続出した。



(山口選手の豪快なティー・ショット)

この第1日からトップに躍り出たのは前年度優勝の山口梅吉(横浜)である。見ていてプロが「あれはまさに職人芸」と舌を巻くほどの切れ味の鋭いショットで着実にグリーンをとらえて行く。スタートの1番で約4mのパットを決めてパー・ディーを出したほか、パー・ディーは8番のショート・ホールと、17番のロング・ホールの計3つ。しかし山口も他と同じようにパットには苦しめられた。

「とにかく雨上りのせいでピンの位置が難かしく、スライス、フックの読み違いがどうでも出てしまう」とこぼしていたが、この日、5番、9番、10番、13番と4つのボギーをたたいたのはいざれも3パットをしたものだった。これで山口は1日目を1オーバー・パーの73でトップ。2位は2ストローク差の75で上位にはいつも顔を出す神林錬(我孫子)をはじめ、小原正也(土浦)、井上朗(姉ヶ崎)、それにシニア新入の脇俊丸(富士エース)の4人が並んだ。



(スコアボードに群がるシニア選手)

最終日はこのトップ・グループのせり合いが注目されたが、山口は出足の1番をボギーでつづいたものの、それ以後は手堅くパーを続けてアウトは1オーバーの37、ところがこの山口を追い上げる立場の人たちがまるで冴えなかった。前日2位のグループではアウトのベスト・スコアが井上の出した3オーバーの39、トップとの差は4ストロークと開いてしまった。その他の人は脇と神林が4オーバーの40、小原は41をたたいて優勝争いから遠去かっていった。

これまで樂に逃切りかと思われた山口だったが、最後のインに入ると3パットを連発はじめた。10番、11番と連続3パット、13番のロング・ホールも3パッ



(スコアのチェックも真剣)

トして、この時点では井上と脇の2人に再度2ストローク差と差をちぢめられてしまったのである。しかし、この井上と脇の喰い下りもここまでで、14番で井上、15番で脇がそれぞれボギーをたたき、また差を広げてとうとう追い切れなかった。この後、山口は17番440m、パー5のホールで見事に2オン、ピンから2m50の好位置につけながら、ここから3パットしてパー・ディーはならず、最終ホールもまた3パットしてボギーと、この最後のインだけで5ホールを3パットするという荒れ模様ながら前半の貯金に助けられ、ついに関東シニア三度目の優勝を手中にした。

「2日目は多少大事をとったが、それがかえってゴルフを悪くしたようだ。特に4ストロークの差がついてから、これなら3パットしても大丈夫などと気楽になつたら3パットの連発につながってしまった。ゴルフは最後まで自分の出来る範囲で締めてかかり、最高のプレーをしなきゃいけないものと悟りました」と山口は優勝の味を噛みしめるより、思うようにいかなかつた自分のゴルフに反省しきり。「まだまだ十分にやれる自信もあるので、この経験を生かして来年のシニア選手権に結びつけ、優勝の記録をあくまで伸ばしたいし、ゆくゆくは公式戦でエージェントも達成したい」

すでに来年度のシニア選手権への心構えも早手廻しに出来上っている山口だが、その口からは次から次と将来のゴルフの目標が飛び出して来る。まさに意欲満々の万年青年振りだった。

競技

第31回関東シニアゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者134名 9月25日(火)・26日(水) 於：龍ヶ崎カントリー倶楽部

順位	氏名	クラブ	第1ラウンド		第2ラウンド		合計
			アウト	イン	アウト	イン	
優勝	山口梅吉	横浜戸戸	36	37	73	37	150
2	栗原幸彦	横浜戸戸	38	40	75	38	153
3	井上朗	横浜戸戸	38	37	75	39	154
4	船田三作	富士エース	40	35	75	40	154
5	山中正市	鳥山相模	41	41	82	39	157
6	神林謙	相模	40	38	78	41	157
7	我孫子	相模	37	38	75	40	157
8	小原正也	土浦浦	38	37	75	41	158
9	闇角勇作	芳賀	39	43	80	39	159
10	武道義野	武道義野	39	41	80	38	159
11	鷹島一雄	あさひヶ丘	43	40	83	41	160
12	浜野賢	レインボーグ	41	39	80	39	160
13	中村政敏	袖ヶ浦	39	41	80	38	160
14	新保衛助	袖ヶ谷	39	40	79	41	160
15	鈴木政伊	鈴木政伊	38	37	77	40	160
16	佐野親夫	武藏	42	40	82	38	161
17	鈴木俊文	小金井	41	40	81	40	161
18	大塚角次郎	東京	41	40	81	39	161
19	成宮良秋	横浜	42	39	81	40	160
20	北沢一郎	東京国際	40	39	79	39	161
21	秋津功	水戸戸	40	39	83	39	162
22	岡安功	東京よりうり	39	42	81	40	162
23	和田康徳	江戸崎	43	41	84	41	162
24	福岡国三	浜松シーサイド	42	41	83	39	163
25	中村正信	我孫子	39	44	83	39	163
26	伊野林秀	龍ヶ崎	40	42	82	42	163
27	鷹島一雄	龍ヶ崎	40	42	82	42	163
28	新井兼之	立川国際	40	41	81	41	163
29	秋葉祐夫	袖ヶ浦	40	43	83	36	164
30	橋引大吉	狭山	39	43	82	43	164
31	大塚成吉	中山	41	41	82	41	164
32	矢野正親	鳥山相模	40	41	81	43	164
33	水戸輝雄	小田原湯本	41	39	80	41	164
34	香取寿和	船橋	44	41	85	40	169
35	江原伸治	ダイヤクリーン	41	39	80	41	164
36	武石小二郎	船橋	40	39	79	42	165
37	菅沼重男	木戸	37	41	78	41	164
38	宮富保	廣之台	44	37	81	40	165
39	浅井時郎	山	36	44	80	44	165
40	菱木茂夫	建ヶ谷	40	40	80	43	165
41	松野英三	京成	39	41	80	41	167
42	雨宮範昌	木戸	41	42	83	42	166
43	佐野亮男	塙	41	41	82	43	166
44	河原克次	茨城	39	43	82	43	166
45	萩原貞千	葉	42	39	81	40	166
46	河原照一	平塙富士見	40	41	81	41	166
47	佐藤進	中山	41	39	80	42	166
48	遠藤義蔵	大	43	39	82	44	167
49	平井正美	津久井湖	41	41	82	42	167
50	渡辺長西部	川崎国際	40	41	81	41	167
51	松岡耕人	東山	41	40	81	45	167
52	鈴木義平	船橋	43	42	85	35	167
53	池水弘	相模	42	43	85	39	167
54	自崎隆司	我孫子	41	40	81	41	167
55	三田伸彦	都	42	43	85	42	167
56	小宮五郎	風	40	45	85	39	167
57	高杉智登	伊豆スカイライン	45	40	85	43	167
58	小島武忠	横浜	39	40	79	45	167
59	河内石太郎	武藏	41	38	79	42	167
60	木場真輝	我孫子	42	42	84	42	167
61	西脇善吾	袖ヶ浦	40	43	83	40	167
62	太田勝郎	横浜	44	39	83	41	168
63	横山寛	鍛ヶ谷	45	40	85	42	168
64	安田俊哉	取手新日本	39	45	84	43	168
65	新井邦史	あさひヶ丘	39	42	81	45	169
66	鳥羽義毅	市原京急	41	40	81	41	169
67	酒井文人	武藏	42	47	89	40	170

競技

第10回関東グランド・シニアゴルフ選手権競技

●期日 10月23日(火) ●コース 程ヶ谷カントリー倶楽部 ●参加者 125名

ことしの関東グランド・シニアゴルフ選手権競技は昨年度のチャンピオン矢野正親(烏山城)が相変わらずダントツの強味を見せ、2位に4ストロークの大差をつけて2連勝を飾った。なにしろ18ホールの1ラウンドだけというトーナメントで、2位との差を4ストロークもつけたのだから、その強さは並大抵ではない。

もともと矢野は身長1m65、体重79kgの堂々たる体格の持主で、名うてのロング・ヒッターである。ところが最近はウエイトがややオーバー気味のため、膝を痛めでおり、大きく振りまわさねばならないドライバー・ショットはまるで不調。それでドライバーは最初から家に置いて来たのだそうである。

「これが結果的には良かったようです」と矢野は云う。元が飛ばし屋だけにスプーンでティー・ショットとしても、他の人のドライバー・ショットを軽々と越して行くだけの長打力の持主ではあるが、「もし、ドライバーを持って来ていたら、長いホールに来れば、たとえ不調でもドライバーを使いたくなり、思わず大叩きをしていたかも知れない」と振り返る。



(2年連続優勝 矢野正親選手)

日頃の成果と自己の持てる力を最大限に発揮してぶつかり合う選手権競技で、最高の武器であるドライバーを1本抜き去ることは、なかなかふん切りのつかないことである。冷静に自分のゴルフを見つめ、現在一番の弱点になっているドライバーをバッカから取除くことによって、プレー上の迷いを無くし、最大の成果を上げることが出来たのであろう。

手堅くスプーンのティー・ショットでスタートを



(グランドシニア選手権ともなれば、ニッカボッカスタイルが良く似合う、スタート風景)



(朝の練習場風景)

した矢野は、3番ホールまではパー・プレー、4番は第3打のアプローチをミスしてボギー、5番も第2打のミスで連続ボギーとつまづいたものの、後は確実にパーにまとめてアウトは2オーバー・パーの38。

インでは10番でこの日はじめてスプーンのティー・ショットを右に押し出し、右土手の前上りのラフからの第2打をショットで手痛いボギーでスタートしたが、続く11番、だらだら上り367ヤードという手強いホール、残り180ヤードの第2打を矢野はクリークで快心の当たり、ボールは頭だけ見えているピンに向って直真で飛んでいたが、グリーンに上ってみるとボールが見えない。念のためホール・カップをのぞいたらボールはその底に鎮座していたという鮮やかなイーグルである。

「これで気を取り直した」矢野はすっかり調子に乗って13番480ヤードのロング・ホールでは、第3打を9番アイアンでピンそば40cmにつけてパー・ディーを追加、通算でイープン・パーに戻したところではじめて連続優勝を意識したようだ。この後、14番、16番とアプローチ・ミスなどからボギーをたたいたものの、通算では2オーバー・パーの74ストローク、2位に並んだ南郷茂宏(相模)、伊藤大造(甘楽)の2人に4ストロークと差を開き、樂々と逃げ込みに成功したのである。

「昨年、小金井でのこの大会に優勝しているので、今年は恥かしくないようなスコアでまわれれば十分……と思っていたのに、優勝できたのは全くの出来過ぎですよ」と本人は謙遜するが、満60才でシニアになりたての昭和49年に関東シニア選手権で優勝し、グランド・シニア選手権も昨年の初登場から2連勝をとげたあたり“出来過ぎ”なんて生やさしいものでなしとげられることはなかった。

これだけのキャリアを積み上げて来ている矢野も、初めてゴルフのクラブを握ったのは45才のときだから、ゴルフを始めたのは年令的にも遅かった方である。以来、他の遊びは一切やめてしまい、ゴルフ一本にしばって精進したのだという。このことは、たとえ遅まきにゴルフを始めた人達でも、その精進次第では選手権のタイトルにも手をとどかせることができるという良い見本でもあり、多くの人に大きな希望を抱かせる見事な活躍だったといえよう。

「健康に気をつけて1年でも長くプレーしたい」という矢野の今後の精進がまた見物である。

なお、この大会で満82才の川本須恵男(大利根)が81ストロークでまとめ、昭和57年度のこの大会に続き、公式戦2度目のエージェントを達成した。



(今大会最年長の川本選手(大利根) ティーショット、81ストロークのエージェント達成)

競技

第10回 関東グランド・シニアゴルフ選手権競技成績表

参加者 116名 10月23日(火) 於: 程ヶ谷カントリー倶楽部

順位	氏 名	ク ラ ブ	アウト	イン	合計
優勝	矢野 正親	鳥山城	38	36	74
2	南郷 茂宏	相模	39	39	78
2	伊藤 大造	甘楽	38	40	78
4	荒井 春寿	長嶺之台	39	40	79
4	鈴木 義平	船橋	40	39	79
4	大内田 染	日本	39	40	79
7	加賀行三	程ヶ谷	40	40	80
7	田島 春五郎	総武	38	42	80
9	国本 基寿	相模	42	39	81
9	柳引 大吉	狭山	40	41	81
9	村山 五郎	相模	39	42	81
9	日塔 優一	相模原	41	40	81
9	川本 須恵男	大利根	43	38	81
14	利光 一久	相模	39	43	82
14	鈴木 兵吉	千葉	42	40	82
16	黒川 乃夫	相模	41	42	83
16	坂本 平一郎	武藏	41	42	83
16	藤原 原英	龍崎	42	41	83
16	高波耕一	松多	42	41	83
16	内田 邦彦	日高	42	41	83
16	森山 鉄雄	鶴崎	43	40	83
16	稻谷 宇吉	小金井	40	43	83
16	郷 植伯	大洗	43	40	83
25	森森 英雄	武藏	41	43	84
25	西原 喜昇	武藏	42	42	84
25	浜洋 治	相模	44	40	84
25	大森 清弥	多摩	41	43	84
25	有光 九州男	津久井湖	43	42	85
29	山口 澄	ニューセントス	42	43	85
29	栗田 英美	アンドリュー	45	40	85
29	平野 善次郎	之台	45	40	85
33	重富 清一	袖ヶ浦	42	44	86
33	池尾 勝巳	相模	44	42	86
33	金葉 芳清	袖ヶ浦	45	41	86
33	田中 孝一	相模	42	44	86
33	角実 実	小金井	43	43	86
33	寺田 正二	霞ヶ関	43	43	86
33	岡田 栄操	龍ヶ崎	43	43	86
33	山縣 異邦輔	中央	44	42	86
33	佐武 太市	東京五日市	42	44	86
33	松田 富哲	風	43	43	86
33	上野 政次	鶴山	44	42	86
33	機本 正三	相模	41	45	86
33	駒場 雅	日光	45	41	86
33	山田 良作	GMG H王子	43	43	86
33	宮田 光秀	東京	45	41	86
48	小林 行治	相模	46	41	87
48	渡辺 松吉	サンコー	45	42	87
48	倉野 四郎	大利根	43	44	87
48	広兼 靖久	サンコー	46	41	87
48	北村 正則	サザンクロス	44	43	87
48	村木 博司	東名	45	42	87
54	山田 正吉	霞ヶ浦	44	44	88
54	平善 男	我孫子	46	42	88
54	山中 正市	相模	47	41	88
54	鈴木 善吾	武藏	48	40	88
54	石井 善一	一の宮	43	45	88

順位	氏 名	ク ラ ブ	アウト	イン	合計
54	関根 薫三郎	魔之台	43	45	88
54	安倉 清久	相模原	45	43	88
54	山崎 重晴	霞ヶ関	45	43	88
54	白石 秀穂	中央	46	42	88
54	安廣 康司	多摩	42	46	88
54	安廣 康司	相模	43	45	88
65	渡辺 武	サンコー	45	44	89
65	浅井 順	湯河原	47	42	89
65	富山 角	袖ヶ浦	40	49	89
69	富山 一敬	千葉	45	45	90
69	有馬 本哲	竹	46	44	90
69	池永 弘	東京国際	43	47	90
69	水嶋 公	相模	46	44	90
69	山崎 勝	サンライズ	48	42	90
69	川崎 国際	川崎国際	45	45	90
75	清水 岩	大利根	46	45	91
75	寺西 田博	同部サン	49	42	91
75	多古 谷	川崎国際	44	47	91
75	古谷 富士	華麗	47	44	91
75	田中 勝	霞ヶ関	47	44	91
81	菅原 伸雄	鶴舞	48	44	92
81	西澤 万敏	湯河原	47	45	92
81	小室 実	湯河原	49	43	92
81	木嶋 隆雄	我孫子	44	48	92
81	上杉 雄	陽光	46	46	92
88	石川 誠一郎	武藏	50	43	93
88	丸山 弥兵衛	高橋	49	44	93
88	小田原 湧	小田原	48	45	93
88	松間 純	鬼怒川	45	48	93
88	根岸 一治	鬼怒川	48	45	93
88	横山 一治	鬼怒川	48	45	93
88	中川 吉	鬼怒川	47	46	93
95	宮崎 三郎	東京	47	47	94
95	龍村 武	京葉	48	46	94
95	大槻 正	鬼怒川	48	46	94
95	林学 葵	東京	48	46	94
95	舟山 篤	鬼怒川	47	47	94
95	荒井 賢	東京	49	44	94
102	大沢 茂	鬼怒川	48	46	94
102	井上 譲	鬼怒川	45	50	95
104	渡辺 洋	三川	45	51	96
105	飯田 尚文	桜ヶ丘	48	49	97
105	真崎 英夫	GMG H王子	48	49	97
107	泉 重	八王子	49	49	98
107	堀 内	鬼怒川	50	48	98
109	坂倉 良助	大利根	52	47	99
110	鍋島 太	川崎国際	52	48	100
111	吉田 利夫	鬼怒川	50	51	101
113	佐々木 恒利	魔之台	49	53	102
114	治部 万兵衛	八王子	53	55	108
	山崎 重太郎	川崎国際			
	佐藤 四郎	業権			

競技日程

昭和60年度主催競技日程表

月	日	曜	競技名	競技場	競		
					方 法	参 加	
5	14 13	火 月	関東女子予選 第1ブロック 第2ブロック	東京国際 鎌ヶ谷	18S 18S	1.加盟俱乐部各種女子会員 2.JGA HDCP 20まで 3.未実施クラブは年間ベスト10スコアで 18まで	
5	20 20 21 21 20	月 月 火 火 月	関東アマ予選 第1ブロック 第2ブロック 第3ブロック 第4ブロック 第5ブロック	武藏 越 大 一 江	野 生 木 宮 崎	18S 18S 18S 18S 18S	1.JGA HDCP 9まで 2.未実施クラブは年間ベスト10スコアで 8まで 3.前年度東日本バブリック・アマ2~10位 4.前年度関東ジュニア2~10位
5	29 30	水 木	関東女子決勝	高麗川	18S 18S	36S	1.予選通過者 2.関東女子前年度10位
6	3 3 3	月 月 月	俱楽部対抗予選 東京地区 埼玉地区 千葉第1地区	青川 梅 越	18S 18S 18S		
5	27	月	千葉第2地区	南	総	18S	任意参加
6	3 5 3 4 3 4 3	月 水 月 火 月 火 月	群馬地区 長野地区 静岡地区 神奈川地区 茨城地区 栃木第1地区 栃木第2地区	太郎 群馬 長野 大秦 水戸グリーン 東宇都宮 鹿沼国際	馬 野 名 野 水戸 東 鹿	18S 18S 18S 18S 18S 18S 18S	決勝にシードされた決勝開催クラブは、 予選競技に出場することは出来ない。 但し、予選ブロック参加チーム数には 加算する。
59.9	28	金	新潟地区	岡	18S		
6	11 12 13	火 水 木	関東アマ決勝	横浜	18S 18S 36S	72S	1.予選通過者 2.月例総合成績40位 3.前年度関東アマ5位 4.前年度関東オープン・アマ3位
7	1	月	俱楽部対抗決勝	鶴舞	18S		各ブロック予選通過チーム 開催クラブチーム
7	23 24 25	火 水 木	関東ジュニア予選	ノーザン錦ヶ原	18S 18S 18S		高校男子 18才未満 中学男子 15才未満 女子 18才未満 (但し、4月1日現在とする)
7	31 8	水 木	関東ジュニア決勝	武藏	高校男子 36S	54S	1.予選通過者 2.前年度男子5位までの者 3.中学、女子は優勝者のみ 4.KGA特別承認者
9	5 6 7 8	木 木 木 日	関東オープン	飯能	18S 18S 18S 18S	72S	1.アマ 関東アマ40位 前年度世界アマ日本代表 (関東在住)
9	10 11	火 水	関東シニア予選 第1ブロック 第2ブロック	相模野 習志野(空港)	18S 18S		1.満60才以上 2.JGA HDCP16まで
9	25 26	水 木	関東シニア決勝	千代田	18S 18S	36S	1.予選通過者
10	23	水	関東 グランド・シニア	我孫子	18S		1.数え年70才以上 2.JGA HDCP 22まで

資 格	予選通過基準	授 賞 範 囲	参 加 料
4.関東学連推薦若干名 5.KGA特別承認者	各ブロック60位まで	メダリスト 全員記念品	予選決勝を通じ 20,000円
5.KGA後援 県アマ5位 (千葉、茨城、群馬、静岡、神奈川、埼玉) 6.KGA後援 県オープン5位 (千葉、群馬、長野、新潟、神奈川、茨城)	各ブロック20位まで	メダリスト 全員記念品	予選決勝を通じ 20,000円
3.月例総合成績10位	全員 2日間プレー	1~5位 全員記念品	シード選手のみ 20,000円
5.前年度関東ジュニア1位 6.前年度東日本バブリック・アマ1位 (関東在住) 7.前年度世界アマ日本代表 (関東在住)	前半36S 成績65位までが後半に進出	1~5位 全員予選通過賞と して記念品	シード選手のみ 20,000円
		優勝、準優勝 個人メダリスト	
		高校男子150人 中学男子20位 女子12位	予選決勝を通じ 5,000円
		高校男子前半18Sで 60位までが後半進出	高校男子1~5位 中学男子・女子1~3位 全員予選通過記念品
2.プロ 関東オープン歴代チャンピオン 関東オープン前年度15位まで 関東プロ協会選考85名 KGA特別承認者	前半36S アマ 1~3位 60位(含むアマ)	プロ 賞金3,000万円 アマ 1~3位 入選記念品 プロ・アマNHK杯	加盟 20,000円 加盟外 25,000円
3.未実施クラブは年間ベスト10スコアで 14まで	各ブロック60位まで	全員記念品	予選決勝を通じ 20,000円
2.前年度関東シニア10位まで	全員 2日間プレー	1~5位 全員記念品	シード選手のみ 20,000円
3.未実施クラブは年間ベスト10スコアで 20まで		1~5位 全員記念品	15,000円

ルール Q&A

判例1 北海道ゴルフ連盟からの質問

暫定球

暫定球をプレーすると宣言し暫定球を打つ時期について。

Q 規則第27条2aにプレーする、マッチプレーでは相手、ストローク・プレーでは、マークーまたは、同伴競技者に暫定球をプレーする意思を告げ、かつプレーまたはパートナーが「初めの球を搜しにでかける前にプレーしなければならない。」とあるが、初めの球を搜しにでかける前とはどの時点を言うのでしょうか。

(イ) 球を打ち終わって、4.5歩き出したが球の行った方向は、紛失球になるおそれがあると思い暫定球を打つことを宣言し、暫定球を打った場合。

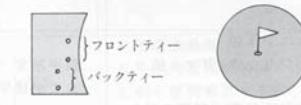
(ロ) 左ドッグレッグで右側のOBのホールで、ティーグラウンドより100m先に小山(200m以上)がせり出していて、球の落下点が見えないホールでナイスショットをした、同伴競技者もキヤディもフェアウェイの真中ですねと言って歩き出し、せり出した小山の所まで来てフェアウェイを見ても球が見えないので、もしかしてつきぬけてOBになってはと思い同伴競技者に暫定球をプレーするむねを告げ、ティーグラウンドまで戻って暫定球をプレーした。それから初めの球を搜しに行った。さいわいOB杭より手前のインプレー球であったので暫定球を拾い上げ初めの球をプレーし、このホールを終了したが、プレー終了後クラブハウスにおいて同伴競技者Aは、彼が打った暫定球は初めの球を打った場所をはなれ小山の所まで行ったのだから暫定球でなく、ストロークと距離の間のものとイン・プレーの球であったのではないかと言ったが、Bは小山の所でフェアウェイに球が見えないので、暫定球を打ちに戻ったのであり、初めの球を搜しに行つたわけではないので、ストロークと距離の間にはならないと言った。どちらが正しいのか?

A 暫定球の規則(R27-2a)はプレーの時間を節約するため制定されたものであり、「初めの球を搜しにでかける前」即ち「球を打ち終わって歩き出す前」と解することが最も厳正ではある。

イ.しかし、公正の理念(R1-4)に従って考えれば、数歩若しくは5~6m程度を歩き出した後であっても、之を「搜しに出かける前」と見做することは、本規則の精神に違反しないものと判断できる。
ロ.之に反し100mも前進した後になって宣言したからといって暫定球のプレーを認めることはR22-2aの乱用であって、斯かる場合は戻って打った第2の球がイン・プレーとなるのは当然である。

判例2 東北ゴルフ連盟からの質問

A・B両人が35ホール目のショートホールでの出来事。(コース図面)



Q オナーであるAは、当日指定されたティー「バックティー」を使用せず、間違ってとなりのフロントティーからボールを打ってしまった。そのボールは見事ピンそばにオン。次にBがティーショットしようとしたところ、BはAの間違いに気付き、ここでクレームが発生。Aは打ち直しを行ったが、両人の判断がつきかね競技委員長の判断にゆだねられ、その結果、Aはそのホール負という裁定がなされました。

その理由は、この件についての関連ルールは次の3条であり、

(1)JGAゴルフ規則 第11条-3(a)

11-3 ティーグラウンドの区域外で打つ

a. マッチ・プレー
プレー者が1ホールの出発に際し、ティの区域外から球をプレーした場合は、その相手は直ちに、そのプレイヤーに対しティの区域内から罰なしにそのストロークを再プレーするよう要求することができる。

(2)JGAゴルフ規則 第20条-7(a)

20-7 誤所からのプレー(ティ・グラウンドの区域外からプレーした球については、第11条第3項を参照)。

a. マッチ・プレー
プレー者が、適用できる規則に従ったが誤所にドロップまたはブレースした球をストロークした場合は、そのプレイヤーはそのホールを失う。

(3)当表裏王国際ゴルフクラブプローカルルール13条

ラウンド中は、プレイヤーはそのラウンドのホール・アウトを終ったグリーン上において、またはそれを目標として練習はできない。

本ルールの反則は、
マッチ・プレーは次のホールの負。
ストローク・プレーはそのホールに2打付加。

第11条第3項のティーグラウンド「の」区域外という文章の「の」の助詞の使われ方は、「ティ・グラウンド」という名詞に限定されるから、この場合いくらくrontティとはいえ、指定されたバックティー以外はスルーグリーンになる。よって第20条7項を採用致しました。

もし仮りにこの第20条7を採用することが間違っていたとしても、当クラブプローカルルール13条に低触し、練習ストロークにみなされる。

よってAはそのホールの負という裁定を下した訳です。しかしながら、ここで次の疑問点が残りました。

(1)JGA規則第20条-7はあくまでもインプレーについてのみ採用されるものなのか。

(2)ティショットではなくインプレーには入っていないので、JGA規則第11条-3に限定して採用されるものなのか。

(3)第11条-3(a)について

もし故意に悪用してどこまで許されるものなのか。例えば、ショットの調子が悪いので、間違ったふりをして、他のティから練習ショットをしてみてもマッチ・プレーのみは許されるものかどうか。

(4)当クラブプローカルルール13条の採用の仕方がはたして正しかったのかどうか。

以上の件につきまして、よろしくお願い申し上げます。

A マッチ・プレーでAがBの要求に従い正規のティから打ち直したのであれば、Aは無罰であり、その球でプレーを続行しなければならない。(R11-3)

(1)-(2) R20-7は適用できる規則に従ってドロップまたはブレースした場合の規則である。本件はティ・グラウンドに関する問題なので誤球のプレーにならない。R11-3aを適用すべきである。

(3)故意に規則を悪用することはルール以前の問題である。

(4)誤ってティの区域外からプレーしたことは、練習の目的でした行為と同一視できない。

本件に関する競技委員長の裁定は間違ってはいたが、その決定は最終である。(R34-3)

判例3 関西ゴルフ連盟からの質問

クラブ競技マッチ・プレーのこと

Q 状況

A…オナー 第1打 ティ左70~80m OB

B…第1打 グリーン手前150mラフ

A…第3打 グリーン手前130m(暫定球)

一応OB球を捲したが、セーフゾーンには出てこな

ルール Q&A

かった為、下の方まで歩いていった。(セーフの球のある所まで)。

その時Aが「もうええから行こう」と発言。Bがギブアップと解釈、球を拾い上げ歩きだした所、Aよりクレーム。「ギブアップではない、次のプレーに進もうという意味である」と。したがってBは元の場所がはっきりしない為、元の位置と思われる近くにドロップし(規則18条2項、20条3項c) 1ペナ付加でプレーを続行した。

結果B (4+1) 5ストローク、A 6ストロークでBの勝ちとなった。

この時Aより「ピックアップは2ペナでマッチ・プレーはホールの負けではないか」とクレームがあった。又、後日になって「拾い上げの球は規則18条2項の処理で球はリプレースしなければならない所をドロップした場合、規則違反の為ホールを失うのではないか」というクレームがあった。

Bの説明は、Aの「もうええから帰ろう」と聞き、ギブアップと思いボールを拾い上げ、歩き出したがAよりアピールにより試合を再開しようとしたがどうしていいかわからず、ボールを置こうとしたら、ドロップだと言われ2度ドロップしたが、ボールが停らない為、プレーしてプレーを続行した。以上の結果B、5ストローク、A、6ストロークとなった。これに対しAの主張は、ボールを拾った時点でプレーに関する規則第1条2項と第2条6項の規則並に拾い上げた球の処置(リプレース)を怠った為Bの負けである……というものだった。

委員会裁定

Aの主張、規則第1条2項・第2条6項はいずれも〔規則に従う場合・別に定めるとき〕を除いて。となつており、この場合、規則第18条2項(プレーにより動かされた球)の条項が適用されるべきものである。

規則第18条2項とは「プレー者が球を拾い上げた場合1打の罰で、その球はリプレースしなければならない、この項の反則はマッチ・プレーはそのホールの負」次の拾い上げた球のリプレースの問題は、状況判断から見て元の球のあった位置は不明であり、この場合、規則第20条3項c(リプレースする球の位置が不明な場合)の規則に従うのが適当である。

規則第20条3項cとは「球をリプレースする地点の決定が不可能な場合、球が止っていた箇所に出来るだけ近く、かつホールに近づかない箇所にドロップ、グリーン上はプレースしなければならない」

以上によりBの処置は適正であったと判断し、Bの勝と裁定なされたが、この裁定は正しかったか。

競技委員会の裁定は適正である。

A Aが暫定球を処理する以前に、Bが自球を拾い上げたことは軽率であった。周囲の状況から判断して、両者のホール・マッチは未だ継続中と思考されるので、イン・プレーの球を拾い上げたBの行為は、明かにR18-2aの違反となり、Bは1罰打を加算してその球をリプレースしなければならない。しかしリプレースすべき箇所が不明であったので規定に従いドロップをしたBの行為は適法であった。

(R20-3c)

エチケット

他の人がアドレスしたら、プレーのラインの延長上は前後ともに立止つたり、うろうろしたりしないこと。

プレーヤーがアドレスした時、そのボールと目標とを結んだ線、つまりプレーのラインを見通せる真後ろの位置、またパッティングのときはボールとカップを結んだ真向いか真後ろから見ているのが一番見安い場所であることはいうまでもありません。しかし、この場所はプレー

ヤーにとっては一番目ざわりであり、プレーに不安を抱かせる場所なのです。他人のプレーのラインを避けることは、ゴルフの重要なエチケットですが、最近はこのエチケットを知らないプレーヤーが多くなったことも事実、お互いに良く気をつけましょう。

理事会・委員会

加盟俱楽部殿

昭和59年11月28日

関東ゴルフ連盟

理事長 細川護貞

59年度第5回理事会議事録

59年度第5回理事会討議事項を下記の通りお知らせします。

日 時 昭和59年11月28日

場 所 ホテルニューオータニ

出席者 細川理事長、武内副理事長、相山、藤原、福田彰、福田富市、古賀、木村、古茶、小宮山、松浦、松野、齐藤各常務理事、金丸、勝山、小林金太郎、小林甲子郎、森井、佐久目、竹井、滝沢、山崎、吉沢、渡邉各理事、及び岩本監事

決 議 事 項

1. 60年度競技実施要領の件

武内競技委員長より競技委員会で決定した60年度競技実施要領にもとづいて説明が行われた。従来の規定より変更された点は次の通り。

① 俱楽部対抗競技

決勝競技参加チームが年々増加し、本年度は38チームとなったが、これ以上増加すると決勝競技が開催不能となる懼れが出たため、予選通過チーム数を下記の通り変更。

予選参加チーム 予選通過チーム

16チームまで 2チーム

24チームまで 3チーム

32チームまで 4チーム

33チーム以上 5チーム

以上の変更により決勝進出チーム数は現状で30チームになる予定。

② 関東アマチュア選手権決勝競技

本年度より18ホール4日間の競技を18、18、36ホールの3日間に変更したため、前半36ホールを終って90位までの者が後半に進出できたものを、競技運営上から65位までに変更。

③ 関東オープン選手権競技

これも後半進出者は60位(アマを含む)と、アマのみ3位となっていたが、アマチュアの実力向上にともない、実情にそぐわないため、"アマのみ3位"を削除。

④ 俱楽部対抗県予選2ブロック編成の件

県予選を2ブロックで行う場合、最初の年は前年度成績の奇数と偶数で2ブロックに分け、2年目は各ブロック前年度成績の偶数順位チームを入替えて編成することを決めた。以上、全員異議なくこれを承認可決した。

なお、引続いて委員長より本年度のグランド・シニア選手権において佐藤与四郎(川崎国際)が歩行も危なっかしい状態で出場し、まわりに迷惑を及ぼしたばかりでなく、相变らず自分のスコアも、マークとしてのスコアもメチャクチャであり、かつてのシニア選手権でも問題を起した人物なので、競技委員会では今後、同選手よりエントリーして来てもクラブを通して一切受けないことを決めた旨、説明があり、全員異議なくこれを了承した。

2. 60年度関東オープン準備委員会結成の件

細川理事長より明年度の関東オープンはそろそろ準備にかかる必要があるため、オープン準備委員会を設置したい旨の提案があり、全員これを了承、理事長に大選を一任され、理事長は次の通り発表した。

委員長 細川護貞 KGA理事長

副委員長 武内俊三 副理事長、競技委員長

委員 古賀始 競技副委員長

中井文治 "

庄野五一郎 鮎龍GC副理事長

森井誠治 常務理事

西原才治 "

山下中 "

尾平聰男 "

熊崎正夫 理事

海保義一 支配人

小川儀一 副支配人

森田一彦 NHK代表

松島義人 ダンロップスポーツ

エンタープライズ代表

石原淳 スポニチエンタープライズ代表

三輪俊之 "

矢野達雄 KGA事務局長

加藤克子 事務局次長

3. 60年度役員改選の件について

細川理事長より、明年度は役員改選の年に当るが、役員の改選は規約によると総会で推薦委員11名を指名し、その推薦した候補者を総会で付議して決定することになっているが、それでは総会で決定するまでに到らないことも考えられるので、事前に各県代表の常務理事が世話をとなって各県ごとに互選の手続きをすませることにしてはどうかと

提案、全員異議なくこれを了承、各県の選考世話を次の通り決定した。

なお、各県での選考は遅くとも1月に開かれる理事会までに済ませることを決めた。

県別	選考世話人	代表クラブ	役職
東京	小林甲子郎	桜ヶ丘カントリークラブ	理事長
埼玉	武内俊三	武藏カントリークラブ	副理事長
神奈川	相山武夫	横浜カントリークラブ	理事長
千葉	松浦均	習志野カントリークラブ	理事長
茨城	古賀始	茨城ゴルフ俱楽部	理事長
栃木	佐藤和三郎	宇都宮カントリークラブ	理事長
群馬	古茶一之	草津カントリークラブ	理事長代行
山梨	大槻光雄	都留カントリークラブ	代表理事
長野	麻原正男	諏訪湖カントリークラブ	副理事長
静岡	木村襄司	東名カントリークラブ	理事長
新潟	斎藤文志郎	フォレストゴルフクラブ	理事

4. 新規加盟申請クラブの件

細川理事長より加盟申請のあった白鳳カントリー倶楽部については推薦クラブの勝又理事からの推薦報告書もあり、またコースレート査定の際に福田彰、古茶両常務理事が現地で調査した報告等から入会資格審査委員会では十分入会の資格を満たしているクラブと判断したとの報告があり、全員異議なくこれを了承、委員会の人選については理事長に一任された。

5. その他の件

①JGA渡辺専任理事よりの書類について

連盟理事長宛に日本ゴルフ協会渡辺武信専任理事名で送られてきた特別委員会プロジェクト案なるものについて検討した結果、内容はあちこちからの寄せ集めでミスも多いこと、それよりも何よりもこういったプロジェクト案はJGAの各委員会で十二分に練り上げたものを、JGA理事会にかけて検討の上、確定すべきものであり、組織としての手続きを一切抜きにして専任理事の名前でいきなり各地区連盟に送りつけて来たのは納得がいかず、組織を無視したものとの意見が圧倒し、結局細川理事長がJGA渡辺専任理事に厳重注意することを決めた。

②余暇開発センターよりの調査協力依頼の件

社団法人余暇開発センターよりゴルフ場の情報サービスに関する調査への調査協力依頼があつたが、種々討議した結果、連盟の体質からいつて協力は無理との結論が出された。

③予算委員会結成の件

細川理事長より、明年度の予算編成の時期が来たので予算委員会を結成したいと提案があり、全員異議なくこれを了承、委員会の人選については理事長に一任された。

次回理事会 昭和60年1月22日(火)正午

於: ホテルニューオータニ

以上

◆コース・レート◆

●昭和59年11月8日
決 定

順位	氏 名	Korai		Bent		合計
		Back	Reg	Back	Reg	
1	松本カントリークラブ (9月20日査定)			72.3	70.2	
2	筑波国際カントリークラブ (10月11日査定)					
3	富士・筑波	69.1	67.7	70.0	68.6	
4	水戸グリーンカントリー倶楽部 (10月16日査定)					
5	袋田・久慈	70.0	68.5	70.1	68.6	
6	久慈・那珂	68.2	67.2	68.2	67.4	
7	那珂・袋田	68.4	67.4	68.4	67.4	
8	真名カントリー倶楽部 (10月24日査定)					
9	こぶし・つづじ	72.0	68.6	71.0	68.7	
10	つづじ・くすの木	72.1	69.6	70.8	68.6	
11	くすの木・こぶし	71.5	69.2	70.4	68.4	
12	青梅ゴルフ倶楽部 (10月26日査定)					
13	東・西	71.1	69.6	70.7	69.3	
14	中・東	70.5	69.0	70.5	69.2	
15	大富士ゴルフクラブ (10月31日査定)					
16	越生ゴルフクラブ (書類審査)	68.8	67.5	69.2	68.0	
17	成田国際カントリー倶楽部 (書類審査)	現行通り		69.9	67.9	
18	イン・中央	66.4	64.8	66.3	64.8	
19	中央・アウト	66.4	65.0	66.4	65.0	

●昭和59年10月15日
仮決定

順位	氏 名	Korai		Bent		合計
		Back	Reg	Back	Reg	
1	セントラルゴルフクラブ 西コース (書類審査)	70.4	68.8	70.7	69.1	

月例競技成績表

(9月月例) 参加: 男子88名 女子51名 9月17日(月) 於: 嵐山カントリークラブ

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	中 村 雅 明	日 大 洋	35	35	70
2	加 藤 一 彦	千 葉	36	36	72
3	志 村 幹 夫	大 洗	34	38	72
4	芹沢 大 介	日 大 洋	36	36	72
5	大 出 正 義	新 千 葉	36	37	73
6	岡 田 光 正	正 川	37	36	73
7	嶋 伸 人	青 梅	39	34	73
8	竹 岡 和 彦	橋 橋	38	35	73
9	田 代 昌 義	新 千 葉	34	39	73
10	米 山 刚 剛	日 大 洋	35	38	73
(以上入賞)					
11	浅 川 彰 彦	武 藏	37	37	74
12	太 田 再 勇	大 相 模	39	35	74
13	小 川 透	同 部 チ サン	38	36	74
14	加 藤 家 光	甘 楽	39	35	74

コース・レート 72.4

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
11	工 藤 久 人	日 大 洋	38	36	74
12	中 野 弘 治	美 善	36	38	74
13	和 田 博 二	東 京 五 日 市	37	37	74
14	上 代 修	中 山	39	36	75
15	桜 本 隆	南 総	37	38	75
16	高 橋 正 博	東 筑 波	37	38	75
17	田 中 伸 一	伊 势 原	39	36	75
18	森 田 直 樹	東 筑 波	38	37	75
19	山 田 好 美	日 大 洋	37	38	75
20	吉 田 八 郎	府 中	36	39	75
21	下 井 昌 史	日 大 洋	38	38	76
22	得 能 三 郎	柄 木	40	36	76
23	内 藤 正 幸	桜 ヶ 丘	39	37	76
24	義 山 錠 滉	立 川 国 際	38	38	76

コース・レート 72.4

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	田 中 成 美	成 城 大 洋	40	40	80
2	渡 辺 恵 子	高 橋 利 水 子	45	36	81
3	鈴 木 エ ツ	大 楽 野	39	43	82
4	三 木 恵 美 子	富 士	40	42	82
5	喜 多 麻 子	茅 ケ 崎	43	40	83

コース・レート 70.3

(10月月例) 参加: 男子68名 女子36名 10月12日(金) 於: 中山カントリークラブ

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	志 村 幹 夫	大 洗	36	38	74
2	白 井 正 衛	新 千 葉	37	37	74
3	内 蔵 正 幸	桜 ヶ 丘	36	38	74
4	小 川 透	同 部 チ サン	37	38	75
5	笠 原 喜 男	新 千 葉	37	38	75
6	吉 田 八 郎	府 中	38	37	75
7	和 田 博 博	東 京 五 日 市	37	38	75
(以上入賞)					
8	芹 沢 大 介	日 大 洋	39	37	76
9	高 橋 正 博	東 筑 波	37	39	76
10	高 安 行 行	セ ン ト ラ ル	38	38	76
11	能 川 広 美	戸 塚	37	39	76
12	原 雄 雄	東 名 厚 木	36	40	76
13	尾 崎 功 一	日 大 洋	38	39	77
14	瀬 戸 朝 朗	中 山	40	37	77
15	田 代 昌 義	新 千 葉	40	37	77

(注)志村幹夫、白井正衛、内藤正幸氏はタイスクロアの為、10月月例にてブレークオフを行います。

コース・レート 72.4

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	吉 沢 キ ミ 子	セ ン ト ラ ル	41	39	80
2	猪 肥 美 恵 子	上 級 富 士	43	38	81
3	渡 辺 恵 子	高 根	41	40	81
(以上入賞)					
4	水 沢 利 水 子	入 間	41	43	84
5	鈴 木 エ ツ	大 楽 野	44	41	85
6	佐 々 木 謙 子	鳥 山 城	43	43	86
7	原 和 子	GMG H 王 子	41	45	86

コース・レート 69.6

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
6	三 木 恵 美 子	富 士	42	44	86
7	小 野 岡 た き 子	大 楽 野	43	44	87
8	高 橋 典 子	鳥 山 城	43	44	87
9	高 橋 良 江	東 京 国 際	43	44	87
10	田 村 千 子	謙 ケ 谷	43	44	87
11	長 岡 洋 子	千 葉 国 際	42	45	87
12	新 田 佐 喜 子	藤 岡	43	44	87

コース・レート 69.6

月例競技成績表

[11月月例] 参加：男子89名 女子44名 11月5日(月) 於：相模カンツリー倶楽部

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	奥延通康	茨城	33	36	69
2	大竹徹	高根	34	38	72
2	加部嗣男	東名	34	34	72
2	内藤正幸	桜ヶ丘	35	37	72
2	堀越栄治郎	相模原	34	38	72
(以上入賞)					
6	五十嵐唯郎	東京五日市	36	37	73
6	池谷英雄	相模原	37	36	73
6	太田再勇	大相模	38	35	73
6	大山四郎	鎌ヶ谷	36	37	73
6	白井正衛	新千葉	37	36	73
6	瀬戸信朗	中山	37	36	73
6	中野弘治	美番	36	37	73
13	宮里佑文	飯能	37	37	74

(注) 10月月例プレーオフの志村幹夫、白井正衛、内藤正幸氏は内藤正幸氏が優勝しました。

(女子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	渡辺恵子	高根	37	41	78
2	鈴木エツ	大楽野	42	37	79
2	吉沢キミ子	セントラル	39	40	79
(以上入賞)					
4	福井美保	GMG八王子	41	39	80
5	清水厚子	大厚木	41	42	83

コース・レート 71.7

コース・レート 69.1

お知らせ

クラブ代表者変更のお知らせ

クラブ名	クラブ代表者
最上新里カントリー倶楽部	(新)小林旭 (旧)川西淨三
サンモリックカントリークラブ	安達建之助
藤ヶ谷カントリークラブ	(新)河野魁 (旧)川崎千春

倶楽部名称変更のお知らせ

(新) 最上新里カントリー倶楽部
(旧) 新里カントリー倶楽部

理事長変更のお知らせ

小金井カントリー倶楽部	(新) 浅野均一 (旧) 永野重雄
月月カントリー倶楽部	(新) 川島広守 (旧) 堀田康一
群馬カントリークラブ	(新) 代行 小林弘仁郎 (旧) 増田定次

東雲ゴルフクラブ

クラブ移転開場のお知らせ

所在地
〒329-12
栃木県塩谷郡高根沢町大字亀梨630
TEL. 0286-76-2800

昭和59年12月15日発行KGAニュースNo.9

発行所 関東ゴルフ連盟 東京都千代田区丸の内1-1-1 TEL.(03)215-0511

発行人 細川謙貞 編集 広報委員会